時事新報

明治廿六年十二月廿一日木曜日
舊暦癸巳十一月十四日(壬辰)
日出午前六時四十九分　日入午後四時三十分
月出午後二時二十四分　月入午前四時十六分
滿潮午前二時四十三分　午後三時十四分
(西暦一千八百九十三年)
年始より三百五十五日　年末まで十日

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり

歳首歳末の時事新報

來る二十七年一月一日は月曜日に當り新報休刊の例日なれども年頭早々の休刊は公衆の不便なるを以て本社は休刊を四日に延べ一日二日三日の三日共發刊す

廣告申込の締切期限

來る三十一日より一月二日迄の紙上は例年廣告掲載の依頼頗る多く且つ此三日間は本社臨時に紙數を増刊するを以て印刷上の都合により廣告申込の期日を左の如く定む此期日を後れて申込まれたる廣告は依頼に應ずる能はざる事あるべし

三十一日の紙面に掲ぐる廣告　來る二十九日限り
一日の紙面に掲ぐる廣告　同
二日の紙面に掲ぐる廣告　來る三十一日限り

時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價(府外遞送には此他後に掲ぐる遞送料を要す)

一號　貳錢五厘○一箇月　前金五拾錢○三箇月　前金壹圓四拾五錢○六箇月　前金貳圓八拾五錢○一箇年　前金五圓六拾錢○月曜日休刊(此他大祭祝日年始年末等一切休刊セズ)

●前金　一旦受取りたる前金は凡て通貨を以て返戻する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報遞送料

一　日本國內並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津　一箇月　金拾三錢
二　南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國　一箇月　金六拾錢
三　北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋　一箇月　金三拾錢
四　香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲　一箇月　金六拾五錢
五　露領浦潮斯德、清國諸港　一箇月　金三拾五錢

時事新報廣告料(前金)

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行に付	十三錢	十一錢	十錢五厘

●廣告料定價　時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる筈なれども取次人の內には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絶する事もあるべき筈に付豫め廣告依頼者諸君に公告す

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐること尠からず偶ま時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と思ふ方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も尠からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に宛て發送あらんことを請ふ

時事新報社に達したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

民黨政府亦可なり

今の功臣內閣と民黨政府と何れが好きやと云ふに我輩は何れにも感服せざるものなれども左ればとて又何れにも異論なきものなり唯國の治安進步の爲めに都合よき政府を見んと欲するのみ抑も國の治安進步は政府の施政に關係すること多し而して政府は人を以て維持するものなれば先づ其人物の如何を吟味すること大切なれども政府と民黨とを比較して何れに人物多きやと云ふに其判斷なか／＼容易ならず若しも老練老功の人を求るときは或は政府の方に多きことならんと雖も活潑有爲の士は今の民黨に乏しからず老成人は次第に老衰し去りて次第に數を減ずる其反對に活潑有爲の輩はます／＼發達してます／＼其地位を進むるが故に今後の望は甚だ大ならざるを得ず人物多少の比較は容易に斷言す可らざるが如し然りと雖も又一方より見るときは政府の地位を維持するには一般の信用を得ること大切にして其信用は必ずしも才智力量の如何に關するものに非ず今の當局の人々は其人物は兎も角も所謂維新の元動にして其功勞は天下に爭ふものある可らず民黨の有志者などの迚も企て及ばざる所にして信用の一點に於ては充分に政府を維持するの資格に富むと同時に不幸なるは部內に絶倫の大家なくして議論の歸一を得ず唯藩閥と名くる一種の題目を中心にして之に依賴し恰も大勢相持の姿なるが故に其間に情實の生ずるも實に止むを得ざる次第にして今の功臣政府のあらん限り其情實は掃はんと欲して掃ふ可らず天下の信用を負ひながら二十年來內の折合のみに忙しく何事も擧らずして其信用に孤負するこそ遺憾なれ今後多事の政局に當りて果して治安進步の大任を全ふすることを得べきや否や我輩の覺束なく思ふ所なり例へば現在の當局者は世に文治派と稱する元老の人々にして多少は經綸の考もあることならんと思ひの外、一定の所見なくして民論の反對を恐るゝ其有樣は多情の細君が亭主の前を氣兼しながら竊に情人に媚を送るものゝ如し實に見るに堪へざるの醜態にして文治とは即ち文弱の異名なりと云はるゝも辯解の辭なかる可し又所謂武斷派は如何と云ふに武骨一偏、事に逢ふて變通の策略に乏しきは恰も田舍武士が江戸見に冷かされヤツキとなつて憤るものゝ如し前內閣の始末の如きは即ち此情態を現はしたるものにして識者の感服せざる所なり畢竟文派なり武派なり其人々に就て見れば決して輕蔑す可きの人物に非ず夫れ相應に見識もあり意見もあることなれども其處が即ち情實政府の情實政府たる所以にして互に其見識意見を實にするを得ず互に不如意を喞つのみにして毫も成蹟の見る可きものなきは敢て今日に始まりたるに非ず而して此情實は人と共に生じたるものなれば人と共に消滅するの外なくして今の元老輩の生存する限りは情實も亦消滅するの期なかる可し誠に堪へ難き次第なれば此處は寧ろ氣を換へて民黨政府の出現も亦或は妙ならんかと試に其次第を語らんに民黨の中には活潑有爲の後進生少なからず假令ひ政治の難局を引受けたりとて其處置に困却することはなかる可し唯名望の一點は今の當局者に及ばざる所にして一般の信用自から薄きが故に鞏固なる組織は到底望む可らず反對の風波強きときには抵抗の力に乏しく更迭又更迭際限なきことならん治安進步の大任を全ふするが如きは迚も覺束なしと雖も今の政府とても年來內部の不折合の爲めに更迭又更迭して遂に何事をも爲し能はずとあれば五十步百步の相違もなく正に難兄難弟のみ藩閥內閣決して難有からず民黨政府敢て嫌ふ可きに非ず且政海の前途を眺むれば多數政治の大勢は世界中の流行にして我國にも政黨內閣の實行は遂に免る可らざるの運命なれば今日より其端を開て政治上の練習を試るも敢て無益に非ざる可し或は一たび其端を開くときは政海風波の搖動は容易に收まらずして秩序の整頓を見るに至るまでは蓋し何十年を費すことならん其年月の間は紛擾の間に經過して治安進步の實を擧ることは難かる可しと雖も凡そ政治の改進は紛擾の間に行はるゝものにして是亦深く心配するに足らず今の政府にしていよ／＼其責任を全ふすること能はざる上は寧ろ民黨政府の組織を促すも亦自から一策なる可し我輩は只國の治安進步を謀るに適當なる政府を成る可く早く成立せしめんことを希望するものなり

雑報

○巴西國の叛將　水師提督メッローは警岸艦ゾヴァリーの沈沒に據て大なる損失を被れり同艦はリオ港の港口に於ける砲臺より烈しき砲擊に遇ひたるなりメッロー水師提督は大統領ペイズオトーの新艦隊を吃止めんが爲め外海へ出發し此度の郵便が桑港を出發せし時には大なる海上の戰鬪あるを期しられ居りたりと云ふ

○布哇の景況　ホノルヽに於ける事態は先便に依て報じたるものと殆んど同樣なり新聞紙面は布哇駐劄前米國公使スチーヴンス氏よりの通信を以て充塞しブラウント氏がスチーヴンス氏に對する責問を論難し居れりと云ふ

○汽船浮上る　先頃ホノルヽ港內の珊瑚暗礁に乘上げ居りし濠洲加奈陀定期航海汽船ミウオウ井ーラは浮上りて暗礁を離れたり四十一日間、掛り居りし割合には被害更になしとも云ふ可し同船は舳に修繕を加へ六週間以內には航海し得可き用意整ふ可しと云ふ

○同志倶樂部の加盟者　同志倶樂部は同部代議士の紹介あるものは何人にても加盟を許す事なるが其創立日尚ほ淺きも近頃は續々加入を申込むものあり現に一昨々日は栃木縣都賀郡野木村の有志者眞瀨宗三郎、落合貫一郎の兩氏及び小山町の天野十郎、谷內一郎、荒川久三郎、秋葉豐等の諸氏外二百四十餘名は今後栃木縣自由黨支部を脱し岩崎萬次郎氏の紹介を以て同部に加入したる由猶は同部員の總數は已に千餘名に達せりと云ふ

○防穀令解禁の建議　朝鮮國仁川港居留本邦人民二千七百名の總代沼野義也氏は去月十九日肥後丸便にて防穀令解禁に關する建議書を陸奥外務大臣へ差出したるよし

○鹿兒嶋縣金談
千餘人の總代として
上京し貴族院は近衞
犬養、佐々、重野四氏
一昨日兩院へ捧呈

○熊本縣川尻町
同線路を松橋まで延
川を横切るに川尻町
大鐵橋を架せざるべ
上は同地の字金の字
ども國道利用の事け
更苦情を唱ふる能は

○海軍士官の更
十名の轉補を執行し

○日下知事
岩越鐵道を布設せん
對しても屢々促した
るは實に一地方のみ
處なれば福嶋縣會は
して一同決議を爲
求したるに知事は之
の運動を爲す筈なり

○山口高等中學
河內山口高等中學校
昨日岡田文部省參事

○兵頭大尉の補
教導團砲兵生徒附に

○仙波少佐の歸
步兵少佐仙波太郎氏

○米艦の拔錨
は大砲射擊の爲め近
横濱を拔錨せり

○鐵道に關する
道布設の競爭盛んな
以て其目的を達せん
に至るものあるが此
總、總武、下總の三鐵道
下總の兩會社のみを指
を內務大臣に建議する
人中其決議を不都合
るに至れり今その理由
の如き數箇の鐵道成立
成る鐵道を指名して
利害を思ふに非ずして
問題に容喙するもの
すれば之が議事に與か
る者たるを得ず然るに
社と關係ある者あり況
房總鐵道の延長線は
願も爲るものなりとて
者ありと云ふ

○酒田新莊間鐵道
議會を開き發起人總
程愈よ完結したるに付
方の重立ちたる人士中
たる由なり猶彼會社の
事務所を酒田港に設置
五十圓とし鐵道の路線